

2024 年度 事業報告

2024 年 1 月から 2025 年 3 月 31 日まで

I. 公益目的事業

公 1 母乳育児の支援及び啓発、普及事業

1. 母乳育児相談室における事業

(1) 母乳育児相談事業

1) 産婦・授乳婦とその家族を対象に、桶谷式乳房手技を中心とした母乳育児支援や保健指導、及び乳幼児の育児相談、離乳食指導などを桶谷式乳房管理士が行う。これにより母乳に対する妊産婦やその家族の不安を解消できるよう努めた。必要時、訪問にて保健指導と乳房ケアを行った。

2) 直営相談室は早稲田・南浦和・二子玉川の 3 カ所で運営を行っていたが、来室者の減少が続いていたため、南浦和相談室は 2 月、二子玉川相談室は 3 月に営業を終了した。

3) 月曜日～土曜日 9:00～17:00(必要に応じ日曜も対応)。1 名 30 分枠、予約制。

4) 助産師稼働は常勤 2 名、パート 2 名、業務委託契約 1 名。

5) 相談室来室困難な妊娠中や授乳中のお母さんに向け、無料オンライン相談を 34 件行う。無料オンライン相談はコロナ禍で相談室に来室しにくい状況の中でスタートしたが、近年相談件数が 30～40 件にとどまっている。SNS 等で検索するだけで、助産師から直接指導を受ける必要を感じない傾向になっている。

(2) 桶谷式乳房管理法研修センター研修生(41 期生、42 期生)の実習指導

1) 早稲田・南浦和・二子玉川相談室にて、桶谷式乳房管理法研修センターの研修生(助産師)の実習指導を実施。実習日時は月曜日～土曜日 9 時～16 時。

2) 研修生と担当助産師との実習カンファレンスを持ち、互いの知見の共有を行う。

(3) 看護学生・助産師学生の実習受け入れ(早稲田・南浦和相談室)

職員のスキルアップをはかることを目的に、実習振り返りと意見交換を実施。手技のみではなく、お母さん対応について資するところがあった。

1) 帝京大学助産専攻科(助産師学生)見学実習 15 名

2) さいたま赤十字看護大学(看護学生)見学実習 17 名

3) 国際医療福祉大学大学院生 7 名

(4) 地域妊産婦対象の母子保健活動・母乳育児の情報提供

1) 「ニコ・ワークス」サイトのオンライン母乳育児講習会と、地域子育てスペースを利用したパパママ向け「おっぱいセミナー」は、企画を具体化することができず開催を見送った。

2) 子育てフェスにて相談室リーフレットを配布するなど、母乳の重要性の広報活動を行った。

(5) 一般市民を対象とした母乳育児の理解を深めてもらうための活動

1) 地域妊産婦および来室者対象の講習会の開催

2) 子育て応援イベント、育児サークルの開催(母乳のワークショップ等)

- 3)相談室の開放など早稲田地域のイベント（町内会のお祭りなど）に参加・協力、母乳相談室の活動への理解を広めた。
- 4)相談室スタッフ中心にインスタライブを開催、お母さん方が気軽に母乳育児の悩みや楽しみを共有できる場を設定した。
- (6)相談室来室者への「育児通信」の無料配布を実施、妊産婦への情報提供を行った。
- (7)うらわ助産師会主催の「うらわ子育て支援センターおっぱい相談」にて、南浦和相談室職員1名が月1回参加。母乳育児相談はじめ育児全般についての相談を受ける。

2.セミナーの開催

(1)会員助産師、研修センター研修生、非会員助産師、その他医療従事者を対象

1)オンライン桶谷セミナー開催（教育企画委員会・教育部担当）

・11月12日～12月3日（3週間）にオンデマンド配信。桶谷式乳房管理士研修センター研修生および会員外計32名。

・リモートにより開催、リアルタイムの最高視聴者数262人、録画視聴回数454回。

講演1「これからの助産師の働き方（生き方）～保険適応化への流れの中で～」

講師：荒堀憲二先生（高山赤十字病院産科部長、SBSK自然分娩推進協会代表）

講演2「乳幼児の食べること 偏食・少食・食べ方の科学的なアプローチ」

講師：大山牧子先生（神奈川県立こども医療センター、新生児科医、IBCLC）

【総括】開催後アンケート結果では、時間や内容について高評価だった。子育て中や高齢の会員、遠方の会員のほか会員外のかたにも参加しやすいセミナーとして、今後もこの形態を継続したい。

2)教育企画委員会活動

・講師候補が出席する学会や講義などへの参加と情報収集

日本助産師会地区研修会（県助産師会主催）に参加し、講師候補の講演会にて学習。

・2024年度セミナーIBLCE(International Board of Lactation Consultant Examiners：ラクテーション・コンサルタント資格試験国際評議会)継続教育単位発行の申請と継続教育単位原稿の作成、個人情報関連の原稿の作成。

講演2についてIBLCE継続教育単位発行申請、当日参加の27名（一般参加者4名）に対しCERPs(Continuing Education Recognition Points：継続教育単位)を発行した。

【総括】コロナ禍により中断していた証明証の発行を2024年度に再開。マニュアルの整備が次年度への課題となった。参加者に魅力的なセミナー内容を準備し、CERPs発行等の特典をつけることにより、学びを深める会員が増えた。一般参加者についてもセミナーを通して、広く協会の活動普及につなげたい。

(2)一般助産師対象とした桶谷式母乳育児の普及と広報

・研修センター企画の母乳育児支援に関するセミナー(主催・教育広報委員会)

『明日から活かせる！桶谷式ハンズオンセミナー～産褥早期の乳房トラブル編～』を開催。

7月5日、8月4日、9月3日、参加者40名(11名、17名、12名)。

11月6日、1月16日、2月13日、参加者59名(16名、23名、20名)。

・参加者募集は推進協会ホームページとSNSのほか、都内病産院30カ所へダイレクトメールを送った。ダイレクトメール後に参加者が増え、効果が確認された。

(3)2024年度日総研「母乳育児セミナー」(教育広報委員会)

・新たな講師3名で、オンデマンドセミナーを開催。

・1月30日～4月24日まで12週間日総研より配信。

【総括】地方での巡回セミナーや、オンラインとリアルのハイブリッド型セミナーの検討も行なう。アンケートでのセミナーの理解度は、「大変満足」42.3%、「満足」53.8%。講演内容が具体的でわかりやすかったためと考えられる。

3.情報提供

(1)母乳育児冊子「育児通信」発行(育児通信委員会)

・発行年4回(175号～178号)、発行部数6,000部。

【総括】会員・利用者向け情報提供誌として定着。デザイン刷新や業務マニュアルの整備など細やかな改善が進み、安定した編集・発行体制が維持されている。今後、会員の申し込み数の増加を望みたい。

(2)ホームページ(ホームページ委員会)

1)ホームページ更新

・ママサイトの「お知らせ」更新(随時)

・「クローズアップ相談室」に掲載する相談室の選考・原稿依頼・編集・登録(3カ月ごと)。
8カ所の相談室の掲載を行った。

・育児通信「やさしいごはん」の登録(3カ月ごとに4～5品)、16品掲載。

・Q&A記事の登録更新(随時)

「母乳育児を頑張りたいと思っているのですがパパが育児休暇をとるにあたりどんなサポートをしてもらったら良いですか。」という質問を新たに設け解説した。

・離乳食動画配信。10品配信。

2)お問い合わせメール対応

・お問い合わせ件数275件。

3)開業者ホームページのパトロール

・10月に実施(千葉・東京東・東京中・東京西各ブロック、前年度訂正依頼した開業者)対象ブロック78施設、前年見直し3施設、新規開業3施設合計84施設でパトロール実施。うち28施設に医療法に抵触する可能性がある文言があり、訂正の依頼を各助産院に文書にて行った。抵触するかどうか不明確な部分については、顧問弁護士に相談後、会員へ報告。

4)ホームページ委員会マニュアル「ホームページ管理システムの運用、操作に関するマニユ

アル」

- ・今年度の改訂はなし。

5)SNS 投稿

6)OPPA!相談室検索サイトの充実

【総括】お問い合わせメールについては、他部門との連携をはかり滞りなくホームページにアップすることができた。ホームページのパトロールは対象ブロックを決めたことで期限内に行うことができた。記載内容については弁護士の指導の下に修正。来年度のパトロール基準については再度会員へ情報提供し、必要時の対応を働きかける。

(3)妊産婦への情報提供（ブロック会、各相談室）

- 1)桶谷式母乳育児推進協会機関誌「育児通信」の無料配布。
 - 2)初診の方へ「おっぱいルームアドバイス」の育児冊子と手技用タオルの無料配布。
 - 3)「女性のがん」リーフレット(日本対がん協会作成)の無料配布及び自己検診の推進。
 - 4)妊婦向けの母乳教室の開催と産後ケアの紹介。
- 神奈川ブロック主催セミナー「おばせみ」7件、参加者数少なく来年度の中止を決定。

5) フェス参加

4月より計4つのフェスに参加。

＜アクセルリンク社主催＞

- ・4月6日～7日「マタニティ&ベビーフェスタ 2024 横浜」パシフィコ横浜 プレパママ教室
- ・10月26日～27日「マタニティ&ベビーフェスタ大阪」インテックス大阪 プレパママ教室
- ・11月16日～17日「SAITAMA 子育て応援フェスタ」さいたまスーパーアリーナ 赤ちゃんのお世話体験教室

＜マイナビ博覧会主催＞

- ・7月6日～7日「MY FAMILY FESTA 2024」東京ドームシティ プリズムホール プレパママ教室

【総括】10月の大阪のフェスより、地方委託での運営委託開始。「人件費は本部、それ以外は地方ブロックの負担」でスタートしたが、フェスグッズセット等の輸送費がかさみ、地方ブロックの費用負担の問題が発生。「本部が人件費・輸送費、おっぱいルームアドバイスを負担」と変更。アクセルリンク社との交渉の結果、10月のフェスから人件費の半分以上の補助を契約。パネルや横断幕作成などの宣伝ツールを作成。

6)ラジオ出演

- ・乳癌予防医学推進協会からの依頼を受け、6月9日、広報部員が出演。マリン FM の番組「ごきげんラジオ」内コーナー「レディーゴー」（乳癌予防医学推進協会担当）。放送は7月の毎週火曜日（第1週～第5週）10:36～10:50 全5回。

(4) 協会が取り扱う母乳育児用品についての情報提供

・オリジナルクッション、おんぶ紐、哺乳器、馬油等。

(5)健やか 21 事業参加

9月に認定を受け総会出席。母乳育児支援に関する情報を会員へ提供。

(6)乳房文化研究会参加

会員申請を行い、セミナー参加情報を会員へ提供。

4.助産師派遣

千葉ブロック主催、地域総合病院の産婦人科スタッフ向けの出張勉強会を開催。

テーマ「産褥早期の母乳育児支援」

・9月9日(月) 18時～19時 30分、千葉メディカルセンター。参加 19 名。

・9月14日(土) 14時～15時 30分、千葉医療センター。参加 19 名。

【総括】

参加者からは満足度が高いとの意見が寄せられた。桶谷式相談室が動画や写真で紹介され、参加者には身近に感じられたようだった。開催した病院の SNS(Instagram)で勉強会の情報発信もされ、桶谷式の広報活動にもなった。病院スタッフを対象としたことで、桶谷式を理解し、妊婦や母親に情報が広がることが期待されるが、今後の開催に向け、担当スタッフの確保等の課題が残るため、開催方法や地域などの検討が必要。

5.調査・研究

(1)学術研究活動（学術研究委員会）

1)活動内容

・これまで会員が行った研究演題をホームページにアップする件については、費用面や活用面などの検討を継続。

・新型コロナワクチン接種後の副反応と授乳の関係について、会独自の研究として、「授乳婦の新型コロナワクチン接種後副反応の実態と授乳・育児への影響とその因子の検討」というタイトルの原著論文が母乳哺育学会誌に掲載された。

(2)業務実態調査(業務実態調査委員会)

1)アンケート集計フォームの配信・回収、結果の集計・分析

会員配信を 2024 年 1 月 17 日に実施。1 月 31 日一次締切、2 月 15 日最終締切とし、回収作業を行った。1 月 1 日の地震を考慮し、北陸ブロックの締切を 3 月 20 日まで延長した。集計結果は桶谷セミナーにて発表。

2)次期担当ブロック（近畿第 1）への引き継ぎ

5 年の任期期間中の変化や担当者の能力の違いを考慮し、自分たちが行ったことを詳しく伝えることが有意義であるとし、マニュアルを作成せず引継ぎを行うこととした。

(3)倫理審査委員会

今年度は対象となる研究はなし。

(4)研究発表に向けての連絡・調整

今年度は対象なし。

6.国際協力(海外活動委員会)

(1)JICA 草の根支援パートナー型計画に基づき実践活動を行った。

1)渡航活動

2024 年 5 月、7 月、9 月、11 月に渡航した。活動計画に基づき現地カウンター・パートの BBF と内容調整、現地で技術研修を実施し、現地会員による会議開催、モニタリング、PR ポスターやリーフレットなどの資料作成、会議などを実施した。2024 年度の本協会派遣者は、栗野雅代、栗田ますみ、渡邊敬子、斉藤貴子の 4 名。

2)現地で指導者養成コースを受講し、マスター・トレーナー試験に合格したものは計 18 名となった。

3)バングラデシュ保健省 NNS(国家栄養サービス部門、以下 NNS)が実施する桶谷研修のガイドライン、プログラムや研修内容プロトコル、アンケートなども作成し、NNS に提供した。

4)7 月の渡航時には、NNS のディレクターや桶谷研修担当者らに、桶谷研修の基本的考えや方法などに説明するとともに、保健省の方針と意見の擦り合わせを行い、合意を得た（その後、8 月に政権交代が起こり、担当者全員更迭された）

5)現地で「桶谷式倫理委員会」を発足させ、倫理規程、活動指針などを作成した。委員長は Dr. Saria Tasnim, 委員は Dr. Shahed と栗野。

6)12 月に ICMH の桶谷プロジェクト担当の小児科医 Dr. Shahed Imran が来日し、日本の桶谷研修センターや当協会の機能、運営などについて研修を実施した。研修センターでは、研修生らを対象にバングラデシュの母乳育児支援について講義を行った。

7)Dr. Saria と前プロジェクト中に実施していた研究結果が投稿され、桶谷の効果について証明された。

<https://oketani.cybozu.com/o/ag.cgi/Effect%5Fof%5FIncorporation%5Fof%5FOketani%5FMessage%5FMethod%5Fin%5Fthe%5FLactation%5FManagement%5FCenter%5Fon%5FImproving%5FBreastfeeding%2Epfd.pdf?page=FileDownload&id=52715&bid=19475&inline=0¬imecard=1&type=application&subtype=pdf&ct=1&ext=.pdf>

8)JICA 第 3 フェーズに向けプロジェクト申請したが、2024 年度は不採択となった。

9)海外活動の広報の一環として、育児通信にバングラデシュでの活動報告記事を掲載した。

(2)海外からの問い合わせへの対応と渉外活動

韓国とトルコからの 2 件。

公 2 教育、育成のための事業

1.研修センターの運営

(1)桶谷式乳房管理法手技による母乳育児の支援を通して、母子の健康の増進に寄与する有能な助産師を育成する。実習場所での過密を避けること、研修の機会を増やすことを目的に2023年度より二期制で運営している。

東京 41 期生(2023 年 10 月開講、2024 年 9 月修了) 7 名

東京 42 期生(2024 年 4 月開講、2025 年 3 月修了) 7 名

東京 43 期生(2024 年 10 月開講、2025 年 9 月修了予定) 2 名

(2)教育計画

1)学科

担任教務による講義・研究・実技演習

第一種会員による臨床講義(専門科目 I)

外部講師による母乳育児支援関連科目の講義(専門科目 II)を計画に沿って実施。

2)実習

基礎実習：オケタニ母乳育児相談室(早稲田、南浦和、二子玉川)

開業相談室実習 I：1 人 3 週間 2 カ所

開業相談室実習 II：1 人 2 週間 2 カ所

3)実習で受け持った継続事例をレポートにまとめ、事例検討会を年 3 回開催。

4)選択科目として実践活動や母乳育児に関する看護研究を実施。

東京 41 期生は地域イベントに出展参加。

5)半年に一度防災訓練を行った。

6)第一種会員に向け、研修センター便り「早稲田の風」を年 4 回発行

(3)2024 年度入学試験

1)東京 43 期生(2024 年 10 月開講) 2024 年 6 月 15 日(土)定員 8 名 受験者数 2 名、合格者数 2 名。

2)東京 44 期生(2025 年 4 月開講) 2024 年 12 月 1 日(日)定員 8 名 受験者数 8 名、合格者数 8 名。

(4)研修センターについての広報活動

1)ホームページ、SNS での発信

インスタグラムが最も多い。その後にホームページを見るという流れが多い。

2)医学書院『助産雑誌』、メディカ出版『ペリネイタルケア』広告掲載

3)学校説明会

説明会参加延べ人数 14 名。研修センターのパンフレットは、当初の計画を変更して、44 期生の研修結果を踏まえ 2026 年 3 月以降に作成予定。

(5)研修センター教務の研修教育

学会への入会と参加。日本母乳哺育学会、日本助産学会に参加した。

(6) 研修センター改革プロジェクトチーム活動

1)2024 年度の進捗状況

- ・新研修要項の作成
- ・総会資料の作成・総会での新カリキュラムの説明
- ・ホームページの更新、SNS、学校説明会、ハンズオンセミナーにて宣伝活動を行った。
- ・東京 44 期生募集要項の作成及び公募。新カリキュラムを見て入学を希望した方もいた。
- ・2 月 26 日の会議をもってプロジェクトの活動を終了。今後の評価は教務会議で実施。研修センター主催の実習指導者会議にオブザーバーとして参加予定。

2)開業相談室実習指導者講習会開催

11 月 12 日、12 月 10 日、1 月 14 日、2 月 18 日にオンラインライブ講習を 4 回開催。各回 40～50 名参加。講師は氷見知子教務主任、真木めい子氏。参加者からは、研修の流れや記録の提出、実習場所の役割、手技の勉強など学びが多かったとの感想が聞かれた。

2.資格付与事業

(1)桶谷式乳房管理士

2024 年度 14 名に付与。

(2)資格認定委員会

8 月と 2 月末に開催。各学年末に認定試験の結果にもとづき資格認定審査会議を開催。

2024 年 9 月 41 期生 7 名全員認定試験合格。2025 年 3 月 42 期生 7 名全員認定試験合格 (2 名は条件付き合格)。

3.教育の充実と技術向上のための研修・サポート事業

(1)ワークショップを担当ブロックで開催

・2024 年度からのテーマ「桶谷の Next Stage」は今後 4 年をかけて全ブロックで開催する。

・2024 年度担当ブロックは千葉・東京東・近畿第 1。

・ワークショップ開催資料は会員サイトに掲載し、会員の閲覧が可能に。

千葉ブロック：「桶谷の Next Stage ～病院出張勉強会への挑戦と展望～」

東京東ブロック：「子どものアレルギーとスキンケア ～インナーケアも添えて～」

近畿第 1 ブロック：「『Next Stage』産後ケア事業の実際を知る」

【総括】2024 年度から「桶谷の Next Stage」のテーマでスタートした。ブロックからは、目的がわかりにくいとの意見もあり、ブロック長・理事合同会議の場で詳細について説明を行った。開催後の報告書に多くの学びが覗えた。

(2)手技ステーション

1)卒業後の手技向上

71 件の利用があった。

2)新手技ステーション担当者育成講習

卒後研修プロジェクト 2030 から教育部が引き継ぎ、6 月に 7 名の新手技ステーションが

誕生。第2期として2025年1月～3月に講習を行い、さらに4名の新手技ステーションが誕生し、全国の手技ステーションは22カ所となった。

【総括】今年度11名の新手技ステーションが誕生し、これまでの手技ステーション11カ所を2倍にという目標は達成。だが、東北ブロック・近畿第2ブロックに手技ステーションがないなど地域の偏りもあるため、今後も適任者の育成に努め、必要に応じて手技ステーションの拡大をはかる方針。

(3)卒後研修プロジェクト 2030

- 1)担当者会議を10回（対面1回）開催した。
- 2)新手技ステーションの推薦、承認、講習の手順を整理し、教育部へ引き継いだ。
- 3)会員から集めた手技に関する質問を整理し、新しい教科書の作成や手技でない部分の保健指導を継承するための準備を進めた。
- 4)卒後研修リーダー制度作成のため、認定30年以上の認定者にアンケートを実施、現在回収中。

【総括】アンケートの回収が遅れているのは、対象認定者の高齢化などが原因と思われる。手技以外の保健指導についても、引き続き会員からの質問を整理しながら、桶谷式母乳育児を伝承できる資料の作成につなげたい。

(4)変更ブロック主催講習会の開催と奨励

1)ブロック出張手技講習会

出張手技講習会：北海道・東北・北関東・東京東・東海・中四国・九州

2)ブロック内手技講習会

手技講習会：北海道・東北・北関東・東京中・東京西・近畿第2・中四国

3)ブロック勉強会

北海道ブロック「周産期メンタルヘルス」、千葉ブロック「症例勉強会」、東京西ブロック「胸郭の見方とケア実技セミナー」、東京中ブロック「肉芽腫性乳腺炎事例検討会」、北陸ブロック「能登地震～これからの支援に参考に～」、近畿第2ブロック「産後ケアについての意見交換」。

4)ブロック主催講習会

中四国ブロック「0歳から2歳くらいまでの子育てを支援する～トリプルPの視点から～」ライブ&オンデマンド開催。参加人数ブロック会員14名、他ブロック会員43名。

【総括】コロナ禍以降、手技講習会は増加傾向だが、ブロック全体の活動は減少傾向にある。ブロックからの意見・要望にブロック活動の負担があがっており、教育部のサポートについて検討。12月からブロック主催の産後ケア実務助産師研修申請を開始。開催外ブロック会員の参加など考察したい。

(5)変更乳房管理士集会の開催

オンライン講演会動画配信。6月17日(月)から3週間、録画したものをオンデマンド配信。タイトル：「奥を開けるまでの歩み」 講師：水川淑子氏・岩橋まり子氏。

視聴回数 686 回

【総括】開催後アンケートからは、桶谷先生の生の声や教えに関心が高く、「手技に関するもの」、「先輩認定者の経験」を実践に役立てたいとの要望が感じられた。

(6)桶谷式手技伝承プロジェクトの活動

桶谷先生のビデオについて、手技ステーションの先生方にアンケート実施。その資料をもとにそれぞれの認定者の学びを残していく準備を進めている。

【総括】今後の計画とし、直接桶谷先生から学んだ先輩認定者が研鑽してきたものを残すための動画作成を進める。また桶谷先生の手技ビデオを深く観る方法についての話し合いもさらに進め、会員が学べる媒体の充実化をはかる。

(7)東京 39 期秋期生・40 期生の卒後サポート

1)総会や本部セミナー等、協会の行事やブロック会への参加を促進。

2)勉強会(ワークショップ・手技講習会・講演会など)への参加を促進。

3 東京 39 期秋期生・40 期生は担当認定者がサポート。

【総括】

研修センター卒業時に、総務部から入会の葉を使用してブロック活動や参加について説明。教育部からは担当認定者お知らせ時に担当認定者・ブロック長への連絡を促し、担当認定者へは挨拶文でサポートをお願いした。桶谷式理論・手技・仕事に関する相談及び指導を計画に挙げていたが、実施できていない。相談するためのシステムの構築が今後の課題である。本部・ブロック活動の参加については、単位表から乳房管理士集会や桶谷セミナーのオンラインの出席率が低い。今後、アプローチの方法を工夫し参加率増加に努めたい。

4.奨学金制度

桶谷式乳房管理法を学ぶ研修生に対しての、経済的な援助のための資金(そとみ基金)。

- ・貸与条件：桶谷式乳房管理法研修センター入学者。
- ・貸与額：1 名 50 万円以内とし、年間 100 万円を限度とする。
- ・利息：無利息とする。
- ・返済：卒業後 3 年以内に分割または一括返済。

現在、1 名貸与、2025 年 10 月完済予定。

5.会員のための情報提供

(1)会報「折り鶴」

年 2 回、第 46 号(2024 年 9 月)、第 47 号(2025 年 3 月)発行。

【総括】マタニティ & ベビーフェスタの報告では、フェスタや町のマルシェなどを通じて桶谷式の PR ができることを伝えられた。武市洋美さん追悼集では、会員の功績を伝えることで、会報誌を通して会員の士気の向上をはかり、会員の対外的な活躍や評価を伝えることができた。桶谷語録は、ブロック内の勉強会で活用しているとの報告があった。桶谷先生から

直に学んだ先輩から先生の教えを学ぶことができるよう、ホームページ委員会などとの連携を強めたい。

(2)ホームページの会員サイトの活用

- 1)桶谷メールによる各部・委員会の情報の配信。
- 2)「お知らせ」に各種書類の掲載。
- 3)桶谷資料(会員名簿、各種規約規程、年間スケジュールなど)の内容更新。
- 4)新規開業者のお知らせを1カ月ごとに桶谷メールで配信。
- 5)総会報告、理事会報告、ブロック長理事合同会議報告、ブロック会議事録の配信。

(3)事業部通信

年4回発行。

(4)安全管理対策情報の提供

助産所開業マニュアル・安全管理基準の案内と徹底。

(5)感染症対策に関する情報提供マニュアルの作成(感染症対策委員会)

新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に分類移行となって以降のマニュアルの見直しを行い、「感染防止マニュアル 2025.03 版(2025年2月改訂)」を発行した。今後の感染症の発症状況に応じて必要時に活動再開することとし、2025年度はいつたん活動休止とすることとなった。

Ⅱ.収益事業

収1事業

1.母乳育児用品の開発・製造・販売・発送業務及び書籍出版事業

(1)協会が取り扱う母乳育児用品の販売促進と桶谷推奨品の選定

- 1)取扱商品の販売促進のため、事業部通信・桶谷会員メール、合同ブロック長会議、ホームページなどで紹介。
- 2)取扱商品の管理を行い、取引先と最新の商品情報を共有する。
- 3)桶谷推奨品の選定と認定基準の明確化を進める。

(2)母乳育児用品の販売・紹介と商品ラインナップの見直しを行い、商品の販売促進を積極的に進める。

(3)発送業務の課題・改善点の検討

- 1)売掛金の回収徹底に努めた。
- 2)取扱商品の在庫管理のシステム化を進める。

(4)新商品の作成

- 1)授乳クッションの新規開発を行い、販売を開始する。
- 2)乳型の製作者の選定と製造・販売を行う。
- (5)取引先企業の育児通信誌上などへの広告掲載の促進を行う。

(6)書籍の出版、販売

1)「おっぱいルームアドバイス」の売上を伸ばす方法を研究する。

相談室初診者だけでなく、フェス・セミナー会場などでの販売機会の拡大をはかった。母親クラス、講習会、産病院、クリニック等への協力を得る努力を行った。

(7)商品ラインナップの見直しと商品の取捨選択

6 月定時社員総会後のキャンペーン開始までに、商品ラインナップの見直しを進めている。一定の粗利を満たさないものについては取り扱い継続の中止を検討し、見直しの結果は総会後に更新する「2025 年度注文用紙」に反映する。

(8)新規商品の開発・導入

新規の商品の開発・導入にあたっては、一定の粗利を継続的に確保できる見通しのあるものに限定して商品化を進めることを前提とし、既存商品については買取を行わないことを原則とした。

(9)事故対応連絡マニュアルの整備

手技タオル害虫混入事故を機に、商品事故発生時の対応連絡マニュアルを作成し、協会内の徹底を進めた。

2.商品の使用方法の解説テキスト・ビデオ制作

哺乳瓶「桶谷式直接授乳訓練用乳首母乳相談室」「オケタニおんぶひも」の使い方を解説するテキストとビデオの制作を行い、指導と使用の手助けにする。

3.協会直営母乳育児相談室の運営

協会直営の母乳育児相談室において、桶谷式乳房管理士が助産所業務及び取り扱い商品の推奨や販売を行う。

収 2 事業

1.産後ケア事業

産後ケア事業としてデイケア、アウトリーチ（訪問）を行った。

(1)デイケア型 38 回件。

(2)アウトリーチ型 166 回。

(3)スタッフミーティングを(月)1 回開催。

(4)東京都社会福祉施設等への非常用電源等整備促進事業補助金制度を利用し、ポータブル電源、ソーラーパネルセットを購入した。

(5)安全マニュアルを作成した。

(6)産後ケア事業の情報発信や PR は、中野区ホームページ、パンフレット、SNS などで行なった。

【総括】

デイケアスタッフに調理担当者が加わり、業務が円滑に進むようになった。アウトリーチの

スタッフが増え、依頼をほぼ受けられるようになった。毎月のスタッフミーティングで、情報の共有が進んだ。

その他の事業

1.助産院開業資金等の貸与(そとみ基金)

(1)開業資金の貸与

今年度は申請なし。

(2)事業資金等の貸与

今年度 1 名貸与、2025 年 12 月一括返済予定。

2.表彰事業

(1)感謝状贈呈

75 歳以上で認定歴 15 年以上を対象とし、今年度は 9 名表彰。

(2)村松志保子顕彰会の参加

1)村松志保子顕彰会 2 名受賞。 2025 年度表彰会員 3 名推薦（会員外 1 名）。

2)年会費 5,000 円の納入。

3)コロナ禍が収束し表彰式が再開され、副会長および理事 1 名出席。

3.福利厚生、交流会の開催

(1)災害等慶弔見舞金の支給

1)弔慰金

1 名に支給。

2)災害見舞金

今年度は対象者なし。

(2)「～45 周年記念～公益社団法人桶谷式母乳育児推進協会懇親会懇親会」の準備

2025 年 6 月 15 日の総会後にアパホテル&リゾート横浜ベイタワーにて、桶谷の歩みを振り返り、会員の親睦をはかる懇親会を予定。

(3)ブロック会親睦会

7 ブロック開催。

(4) 災害慶弔等見舞金の支給

ブロック会マニュアルに則り 5 件支給。

法人運営に関する事業

1.桶谷戦略プロジェクト

- ・ 4 月、総会で会員に向けた運営改革案事前資料を完成。配布までの計画案を説明。
- ・ 5 月、第 2 回理事会で、総会発表に向けプレゼン資料配送準備、実施。

- ・6月、総会で協会改革案を発表。事前質問、当日質問に対して回答。
- ・9月、公1事業母乳育児相談室事業縮小を決定、実施に向け各担当部門協力。
プロジェクト終結を提案、理事会承認。

2.会議の開催

- (1)2024 年度定時社員総会開催。2024 年 6 月 16 日、横浜市。
- (2)理事会開催。(理事会 9 回。対面 2 回、オンライン 7 回)
- (3)監査年 2 回実施。
- (4)運営人事委員会開催。毎月 1 回。
- (5)ブロック長理事合同会議開催。9 月 16 日、3 月 16 日。
- (6)各ブロック会におけるブロック会議を 3 回以上開催。

3.改定後のブロック会運営規程とブロック会マニュアルの運用

ブロック長・ブロック会計マニュアルの作成と説明会を実施。

4.広報活動

- (1)アンケートの実施

利用中のお母さまを対象に、「効果的 Web 広報のためのアンケート」を全国相談室にて 9 月～10 月末で実施。今後分析を進め、Web 広報の方針を確定する。

利用者からの回収 584 件。フェスアンケート回収 311 件。

- (2)SNS フォロー

SNS フォロワー数は増加中。ホームページアクセス数は低迷中。

ホームページ総アクセス数：9,917 件(3 月)。Instagram フォロワー数 2,399 件（3 月 31 日）。LINE:お友達数：1,930 件（3 月 31 日）

- 3)部員増員

活動内容の広がりに伴う委員の業務量の増加に対応するため、2025 年度の部員増員を決定。

【総括】部員増員後は担当を明確にし、1 人に負担がかからないようにしたい。アンケート結果の集計を行い、Web 広報の充実をはかり、活動の幅を広げたい。フェスに参加したことで、他企業・団体よりイベントやコラボレーション等の提案を受けている。内容を精査して対応したい。

5.災害マニュアルの整備と会員への周知

- (1)令和 6 年能登半島地震災害支援の経験から災害対策マニュアルの見直しと、ブロック長・災害担当副会長への緊急連絡方法の変更を行った。

- (2)災害対策訓練の実施

10 月 31 日、全ブロックを対象に安否確認訓練を実施した。本年度より LINE を使用した訓練となったため、ブロック会員の連絡伝達がスムーズに行えた。ブロック会員の連絡方法など、ブロック長が把握しやすくなったのも成果があった訓練であった。理事は、災害本部

立ち上げから解散まで、紙上訓練を行った。時間を要したが、流れが理解でき今後に繋がれるものとなった。

6.適切な法人運営に関する事業

- (1)適切な法人運営に関し、顧問弁護士、税理士、社会保険労務士の助言を受けた。
- (2)適切な法人運営に関し、各種保険に加入する。日本助産師会への入会や助産師賠償責任保険への加入を促した。
- (3)適切な法人運営に関し、情報管理に関する業務。

(4)会員情報の把握・整理

1)第一種会員

2024 年度総会において正会員の所属ブロックについて拡大を承認された。

(入会および退会に関する規程 第 3 条) 所属ブロック変更申請 2 名を承認。

- ・会員名簿作成。
- ・乳房管理士台帳の管理（本部・副会長・総務部）。
- ・身分証明書 13 名発行、会員証 14 名発行、認定証 14 名発行。
- ・緊急連絡先の管理。
- ・会員の健康診断受診状況を把握し、健康診断の受診を促した。受診率 87.8%。
- ・単位取得について（70 歳未満の正会員が単位提出）。
- ・退会者台帳作成と情報整理。本年度退会者 12 名。

【総括】2024 年度単位表提出率は 96%。5 年間で 25 単位以上取得率は 68%であった。

健康調査票と一緒に Web 提出であったこと、ブロック長の協力でブロックグループ LINE を使用してアナウンスできたところが提出へつながったと考えられる。

2)第二種会員・賛助会員

- ・第二種会員入会なし。賛助会員 10 団体、個人 1 名。
- ・開業者ホームページのパトロールを 10 月に実施。

3)会員専用ページの会員情報について総務と連携し、会員のサポートを進める。

4)ホームページ委員会マニュアルの作成

ホームページ委員会マニュアル「ホームページ管理システムの運用、操作に関するマニュアル」を改正。

5)安全管理事例報告書および管理

2024 年度の全ブロック安全管理事例集計集を用いて報告を受けた。報告事例 8 件（乳児の事故 5 件、母親の事故 1 件、接遇 2 件）については資料にまとめ、2025 年度会員総会で会員へ掲示し共有する。計画にそって報告書の作成と整理する事ができた。

6)「お母さまからの声」 報告及び管理

7)「認定者の声」報告及び管理

8)資料・記録の整備と保管

(5)適切な法人運営に関して、オケタニ早稲田ビルの管理・維持。

(6)適切な法人運営に関して、事務局運営。

(7)適切な法人運営に関して、財務の管理。

1)2024 年度ブロック会計マニュアルを改訂し、ブロック会計説明動画配信を 2 回実施。

2)中間・決算会計監査実施。

(8)委嘱状を 71 通発行。

(9)理事関連

1)選挙管理委員を 1 名選出。

2)理事・監事の改選時の登記変更。

2024 年 6 月 27 日に法務局に書類を提出し、登記変更済み。

2024 年度総会議事録・2024 年度第 3 回理事会議事録・理事就任承諾書・理事辞任届

(10)令和 6 年能登半島地震・豪雨災害支援

災害地域における被災されたお母様へ、災害母子支援として手技を無料で提供した。能登半島地震では 2024 年 1 月 4 日～9 月 30 日の期間に申請者 9 名、被災者支援数 32 名（延数 54）の支援を行った。

能登豪雨災害発生（2024 年 9 月下旬）後は、地域を豪雨災害地域として支援を継続し、2024 年 11 月 24 日までに申請者 1 名、被災者支援数 1 名（延数 2）の支援を行った。

地震発生から、日本赤十字社及び石川県助産師会への寄付、石川県助産師会へ物資の支援、被災者に向けて無料で桶谷式手技を提供するなど継続した支援を行うことができた。

経費合計 691,732 円、災害基金残高 762,136 円（2025.3.31 現在）。

【総括】今後の課題として、限られた資金の中で災害発生時に同様の対応することが困難であることが予想される。寄付金及び支援内容、資金調達について検討の必要がある。